

伝道主日
説教

神さまに信頼される教会

<テモテへの手紙二 4:2>



李明忠 牧師(横浜教会)

「御言葉を宣べ伝えなさい」という命令に従って、私たちは折りつつ、いろいろな努力をして宣教の業に励んでいます。しかしなかなかうまくいかないのが現実ではないでしょうか。そのため、ありとあらゆるプログラムやイベントを企画し、実行し続け、その努力に見合わない僅かな収穫に嘆き、疲れてしまっている牧師や信徒、教会があると思います。そのようになると「私たちは行動している」ということだけで満足する教会となり、動き続けることが宣教であると勘違いしてしまうのです。

2018年の宣教をスタートするにあたって忘れてはならないのは、私たちの教会が「神さまに信頼される教会」となっているか確認することです。初代教会の記録に「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされた」(使徒2:47)とあるように、教会とは主なる神さまが失われた魂を導いて送り込まれる場所であることが分かります。そしてそれは神さまがその教会を信頼している時に起こるのです。

それでは、神さまに信頼される教会となるにはどうしたらいいのでしょうか。

1. 折が良くても悪くても御言葉を宣べ伝える教会

「折が良くても悪くても」とは他の訳では「時が良くても悪くても」と記されている御言葉です。この言葉を分かりやすく言い換えるなら、「福音を伝えやすい時、そして福音を伝えることが難しい時」となります。私たちはキリスト教に興味があるという人に会うなら福音を伝えやすいと喜ぶますが、職場とか近隣のつきあいでは神さまのことをなかなか言い出せません。折が悪いと判断しているからです。

私たちが伝道する時、神さまがお働きになるタイミングを逃してはなりません、多くの場合、そのタイミングは私たちには分かりません。そのため私たちは折が良くても悪くても、たとえ嫌がられても御言葉を宣べ伝えることを励まなければならないのです。私たちがどのように感じようと、いつでも御言葉を語る教会、信徒、そして説教者となるのが大切なのです。

世間の空気を読んで福音をアレンジしたり、真実をぼかしたりする教会を神さまは信頼することができません。「この教会はいつでもキリストの福音を語っている」と神さまに信

頼される教会へと変えていただきましょう。

2. とがめ、戒め、励ます教会

「とがめ」とは「責める」という意味です。「とがめ、戒め」とは神の御言葉によって人の罪を指摘し、悔い改めるように責めるのです。私たちは教会から人がいなくなるのではないかと心配して人の罪をとがめることがなかなか出来ません。「そのままで愛されていますよ」と語り続けるのが福音だと勘違いしたりします。しかし、もし人が御言葉によって罪人であることを示され、怒って教会から出て行ったならば、それこそ心に御言葉が到達した証拠でもあるのです。ただ、とがめ戒めだけでは人は倒れてしまいます。罪を指摘した後、大切なのは「励ます」ことです。この励ましこそ、私たちを愛するがゆえに私たちの罪の身代わりとなって死んでくださったキリストの福音です。このようにとがめ、戒め、励ますことが出来る教会を神さまは信頼して、失われた魂を送り込むのです。

3. 忍耐強く、十分に教える教会

「忍耐」とは我慢するというネガティブな行動ではありません。他の訳では「寛容」とあるように、クリスチャンの忍耐とは愛から出るものです。「愛は忍耐強い、すべてを耐える」(1コリント13:4,7)。人々は御言葉をなかなか喜んで受け入れず、冷やかな態度の人や、文句を言う人もいます。なかなか心を開かず自分本位で物事を考える人も多いでしょう。その時、私たちはすぐに諦めたり、気分を害して怒るのではなく、私たちが神から受け取った愛から発生する忍耐を働かせて、相手が理解できるように相手の理解力に合わせて、十分に教えなければいけないのです。このように愛による忍耐を持ち、十分に教える教会こそ、神さまに信頼される教会となる事が出来るのです。

伝道主日を迎えて、宣教のための新しいプログラムやイベントを考える前に、私たちがどんな時も御言葉を宣べ伝え、罪をとがめながら福音によって励まし、愛の忍耐をもって十分に教えているのか自分たちを省み、神さまに信頼される教会へと変えてくださることを主イエス・キリストの御名によって祝福します。



2018関東地方会諸職セミナー

主題: 主の教会のために!

日時: 2018年2月11日午後4時～6時

場所: 東京希望キリスト教会

会費: 各教会の諸職数×500円

講師: 李興植牧師(大邱坪山教会)



※日本語同時通訳あります

関西地方会

2018年新年査経会開催 教職者・師母セミナーも同時に



2018年関西地方会新年査経会が、伝道部主催で1月13日(土)から15(月)まで、大阪地域は大阪教会で、京都地域は京都南部教会で開催された。「見よ、わたしは新しいことを行う!」(イザヤ43:19)として開催された今回の新年査経会は、講師として金承民牧師(遠美洞教会/韓国富川)を招請した。

最初の集会は13日(土)の午後7時、大阪教会で金鐘賢牧師(伝道部長)の司会で始まり、2回目の集会は14日午後3時、同じく大阪教会に関西地方会の各教会が集まり150名以上が参加する中、心をついて礼拝を捧げ、恵みを分かち合った。

3回目の集会は15日(月)午後7時に、許伯基牧師の司会で京都南部教会で開かれ、関西地方会の教役者たちによる特別讃美があった。

また、15(月)午後3時から「教役者・師母セミナー」が関西地方会教役者会の主催で開かれた。主題は「人を立てるリーダーシップ」(エフェソ4:11~12)で、講師は金承民牧師が行った。

今回の新年査経会は、関西地方会の各教会が2018年の新年



女性のための電話相談

DVや子どもの問題など

ひとりで苦しんでいませんか

話すことは解決への第一歩...

☎ 06-6731-1616

〈電話受付〉第1・3・5週土曜日 正午12時~午後4時

日本語 第1・3・5土曜日 韓国語 第1・3土曜日



国際人種差別撤廃デー 市民集会

マイノリティ宣教センターでは、3月21日の国際人種差別撤廃デーに、日本のNGOの方々とともに、世界各地で展開されている人種差別反対のたたかいと連帯し、日本における人種差別撤廃基本法の早期実現を、日本社会に訴えるための集会を開催します。

- と き：2018年3月21日(水・休日)
13:00~16:00
- 場 所：在日本韓国YMCA 9階ホール
- 参加費：1,000円(学生500円)
- 基調報告 師岡康子さん(弁護士)
- 移住女性、被差別部落、アイヌ、在日コリアンなどのマイノリティの現場から、海外からの声

を神の恵みの中で過ごすために、み言葉を聞いて祈り、新しい決断をする恵みの時間であった。新年査経会のために大阪教会と京都南部教会が場所を提供して礼拝を準備し、特に、関西地方会の多くの信徒たちと教役者、師母たちが讃美と祈り、伴奏と通訳、案内など、礼拝のために献身的な奉仕をしてくれた。これからも関西地方会の各教会が集ってともにみ言葉を聞き、祈り、賛美し、神に栄光をささげることが出来ることを願う。

(報告:宋南鉉牧師)

西南地方会

2018年正初査経会及び 都諸職会、福岡で開く

2018年1月7日、福岡教会で伝道部主催の西南地方会の「正初査経会及び都諸職会」が開催された。今回の正初査経会は折尾教会を担任する千奉祚牧師が講師となって「聖化への道」という題で、ローマ書6章1~23節の御言葉を講釈した。率直で真実な千牧師の話は西南地方会のすべての牧会者と信徒たちの心に深い感銘を与え、新年を迎えて私たち自身が死んで聖化の道へ進んで行くように、霊的なビジョンを与えてくれた。



第二部は、西南地方会会長である李恵蘭牧師の導きで都諸職会があった。たとえ少ない人数(42名の参加)の今回の集まりではあっても、遠い沖縄教会の、郭鏞吉牧師と朴在徳長老までが参加し、大変意義深い都諸職会となった。

都諸職会の時間には各教会別に前に出て、新年の教会の働きと祈禱課題を分かち合い、西南地方会の各教会のための深い祈りの時間を持った。

(報告:辛治善牧師)

大阪第一民宿[OSAKA STAY]

代表:鄭洪権長老/安姫子勸士(大阪教会)

大阪市生野区中川西3-9-6(大阪教会近く)

Tel 06-6777-7033/携帯090-8538-4433

Kakao ID: nttip0033

Email:osakastay@dune.ocn.ne.jp

http://www.osaka-stay.net

大阪市指令許可書11549号

国際人種差別撤廃デー 合同祈禱会+感謝会

3月21日の国連人種差別撤廃デーにあわせ、「世界のマイノリティを憶えて祈る」との声明を受けて祈禱会を開催します。併せて、マイノリティ宣教センターの創設から1年に際して、サポートをくださった諸教会、諸団体の方々に感謝を込めて、夕食をともにしながら、活動の報告をするともに、明日にむけての課題を確認し、共有したいと思います。

- と き：2018年3月21日(水・休日)
※祈禱会：17:00~18:00 ※感謝会：18:15~20:00
- 場 所：在日本韓国YMCA 9階ホール
- 祈禱会：申し込み不要です。
- 感謝会：申し込みが必要です。
参加費：3,000円(学生1,500円)

※メールで下記までお申し込みください。E-mail: info@cmim.jp

西部地方会

日本基督教団兵庫教区の「日韓交流信徒大会」開催



2018年1月8日(成人の日)に、日本基督教団兵庫教区甲東教会において「主は一つ、信仰は一つ」という主題のもとに、「美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ」を副題として第34回「日韓交流信徒大会」が行われた。

開会礼拝は、講演者である関谷直人牧師が「荒れ野に敷かれた道」(イザヤ43:15~19)という題目でメッセージを述べた後、甲東教会の西沢他喜衛牧師の司式によって聖餐式が執り行われた。続いて新成人の祝福式が執り行われ、1名の青年(在日大韓基督教会川西教会)が皆の前で祝福の時を持ち、礼拝後は参加者全員が10分団に分かれて、昼食をとりながら、テーマ「わたしの教会、讃美・教会の音楽、家庭・信仰の継承」を選択し、交わりの時を持った。

午後は、関谷直人牧師による「新しい歌を主に向かって歌え」というテーマで讃美が捧げられ、その場にいる兄弟姉妹も関谷牧師のギター演奏に合わせて一緒に讃美を捧げた。関谷牧

師のユーモアある語り、素晴らしいギター演奏、そして力溢れる讃美はその場に在るすべての信徒たちに神様に讃美を捧げる喜びを与えた。関谷牧師は在日コリアンと日本の信徒が共に知っている讃美を選曲し、その場にいた信徒たちが国籍や民族は違うけれど主の中で一つであることを強く感じた時間であった。

今回の大会では、兵庫教区側の参加が25教会89名、西部地方会側が6教会46名、合計135名の参加があった。これから私たちKCCJの西部地方会は日本基督教団兵庫教区と協力してこの大会を魂と信仰の交わりとして継続して行きたいと願う。

(報告者: 尹聖哲長老)

西南地方会

クリスマス音楽礼拝開催
各教会の趣向を凝らした出し物に歓喜

西南地方会では、恒例の連合クリスマス音楽礼拝(女性会と青年会主催)を去る12月10日(日)博多教会において開催した。各地から約76名が参加。1部礼拝では金仁果牧師が説教し、連合聖歌隊が高らかに合唱して主を讃美し、尹善博牧師の祝福で終えた。

2部においては、各教会の出し物と参加者紹介があり、それぞれの教会が趣向を凝らした出し物に場が大いに盛り上がった。

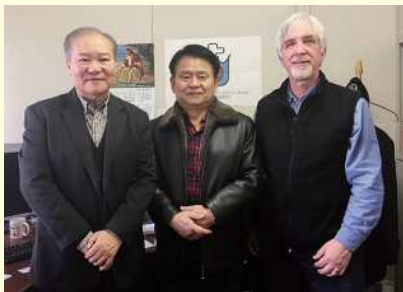
博多教会の暖かいもてなしを感謝し、聖夜の喜びと分かち合いの感謝を胸に帰途についた。

(報告: 書記 李好子)



カナダ宣教師の足跡を辿って

—トロントより黄煥瑛長老が日本訪問—



カナダのトロントには、過去に韓国に派遣され宣教活動を行ったカナダ宣教師たちの資料を展示した資料館があります。

2011年に開館した「来韓カナダ宣教師資料館(Museum of Canadian Missionaries in Korea)」では、1888年に朝鮮に派遣され活動したゲイル(Gaile)宣教師に始まり、130余年にわたって韓半島北部と間島地域の福音化と近代化、そして民族解放に寄与した180余名の来韓カナダ宣教師たちの献身と信仰的遺産を未来に継承するため、彼らの宣教活動に関する資料を展示しています。

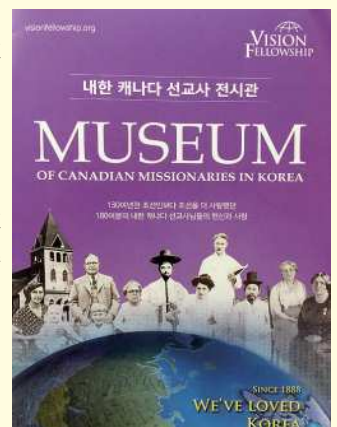
この資料館で責任者として仕えている黄煥瑛(ファン・ファンニョン)長老が、昨年4月よりカナダ長老教会から在日大韓基督教会に宣教師として派遣されており、マイノリティー宣教センターにて仕えているデービッド・マッキントッシュ宣教師に会い、日本にも在日大韓基督教会に来て宣教したカナダ宣教師たちがいた事実を知り、資料の収集と足跡を辿ることができれば、それらも展示したいという意向で日本を訪問されました。

先の1月16日、デービッド・マッキントッシュ宣教師の案内で総会事務局を訪問した後、大阪ならびに名古屋を訪れて関係者たちに会い、カナダに帰国されました。私たちの総会でもこうしたカナダ宣教師たちの資料の収集を積極的に協力し、困難な時代に日本に来て在日大韓基督教会で宣教したLLヤング宣教師を始め、ジョン・マッキントッシュ宣教師、グレン・デービス宣教師、アンダーソン宣教師などの関係資料を集める作業をしなければなりません。

総会に属する全国の教会に、カナダ宣教師たちの写真や書跡、品物などがありましたらご連絡くださいますようお願いいたします。

願わくば、2019年の全国教役者研修会をカナダのトロントで行い、この資料館を訪問することはもちろん、私たちの総会に多くの宣教師を送り援助してくれたカナダ長老教会(PCC)ならびにカナダ連合教会(UCC)を訪問することも大きな意味があることでしよう。

(総幹事 金柄鎬)



特別寄稿

『実りのときを喜んで』

—在日大韓基督教会との宣教協約締結20周年記念集会に出席して—



日本キリスト教会 渉外委員長 八田牧人 牧師 (札幌発寒教会)

日本キリスト教会・在日大韓基督教会宣教協約締結20周年記念集会が、2017年11月23日(木・休)、大阪姫松教会を会場に開催された。今回の集会は、両教会の現状や課題を教職者が互いの理解のために交換するのではなく、青年が主体となり、教会によって何を得たのかを自らの言葉で語るものとなった。宣教協力実務委員会で発議され、実際に青年を交えて準備が重ねられ、ポスターやプログラム、当日の実務まで青年の手によって作成・準備され、当日参加者は64名となった。

青年たちと共に準備に当たった金 迅野横須賀教会牧師(在日・横須賀教会・信徒委員長)、大石周平府中中河原伝道所牧師(宣教協力実務委員)、会場教会を担って下さった藤田英夫大阪姫松教会牧師(近畿中会議長)の尽力に感謝したい。

開会礼拝は金 健 川崎教会牧師(在日・副総会長)の司式、富永憲司柏木教会牧師(大会議長)の説教、朴 成均和歌山第一教会牧師(在日・関西地方会長)の聖餐式司式、金 鐘賢浪速教会牧師(在日・総会長)の祝福によって行われた。

メインとなる発題は両教会から3名ずつ、6名が10代、20代、30代と年代を代表する形で『WA』-「欠け」のある者から「欠け」がえのない者へ-の主題に則し、自らの体験を通して実感し、考えていることを語った。発題者は、発題順に10代代表が李智熙(在日)、藤守麗(吉田)、20代代表が張昌沫(在日)、平岩ともり(吉田)、30代代表が金祥宇(在日)、大石啓介(鶴見)であった。全員、若者らしい個性とパフォーマンスを発揮して、誠実にそして懸命に語った。そして、北海道や東京、近畿から集まった聴衆の青年たちも誠実に共感をもって聞いていた。その一体感は単なる仲間内だけの盛り上がりではなく、聞く者すべてに共に考えることを促すものであった。

発題者が一致して語っていたのは、彼ら自身の経験を通して、自分を自分たらしめているものが教会から与えられたものであること、そこから迷い出た欠けのある自分が居場所に立ち帰れたと喜んでる姿であった。また、自分の努力や見識を誇るのではなく、交わりによって、信仰によって生きることを発見した喜びと感謝が語られていた。もちろん、彼らの試みはまだ終わった訳ではない。だが指標を得た実感がこもっていた。そしてより多くの仲間たちと語らい、輪を広げ、喜びを伝えたいという願いが伝わった。各年代の発題ごとに行なわれたグループトークも、両教会の青年が均等に担当し、熱心に語り合っていた。

全てに共通して言えることは、両教会が直面する課題や立脚点に差異があるにしても、信仰によって生きるという聖書の伝えるべき事柄が、両教会の青年たちに確かに伝わり、聞かれ、生きる中に共有されて活きていることである。

ここに、われわれ皆が心すべき事柄がある。宣教・伝道が

問題とされるとき、伝えるべき内容と如何に伝えるかが先立っていないだろうか。どのように聞かれているかという問いも、説得の成果や型の設置と同義になっていないだろうか。だが、そのような迷いや懸念の中でも、聖書のことばは確かに伝わり、聞かれ、生きている事実を彼らの発言から聴き取ることができたのである。

宣教協約は、実際にはどのような働きを果たすのか、教会の働きがどのように一致し、協働を可能にするのか、実に様々な意見や立場があるだろう。しかし今回の20周年記念集会は、両教会が語って来たことの何が聞かれたのかをじっくりと聞き取ることによって喜びを与えられた。

両教会とも、青年層が薄く人数的には少ないのは現実である。しかし正しい訳ではない。実りは育まれていた。青年たち相互の信頼と発言に、われわれ聞く者は喜びを見出した。教会が語って来た福音が確かに聞かれている喜びこそ、宣教する者にとっての最大の希望であろう。その希望を信じ、開会説教で語られた「恐れるな、雄々しくあれと言ったではないか」のみことばにどう応えるか、両教会が共に喜び、共に考えさせられた集会であった。

※この記事は日本キリスト教会の機関紙福音時報2018年1月号から転載したものです。



豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のご会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。

◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座

◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャング)

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休日
シングル	¥6,700	¥6,200
ツイン	¥10,500	¥9,800
トリプル	¥13,500	¥12,600

※朝食¥200(宿泊者価格)